

復活「恋人の聖地」

橋の影が横にしたハートの形に見えることから「恋人の聖地」とも呼ばれ、昨年の熊本地震で一部崩落した美里町の石橋「二俣橋」の復旧工事が終わり、再び通行できるようになった。

【笠井光俊】

二俣橋は江戸時代後期に造られ、川の合流地点で二つの橋がし字形につながっている。10月2月の晴れた日の正午直前、片方の橋の影がハート形となり、もう

美里町

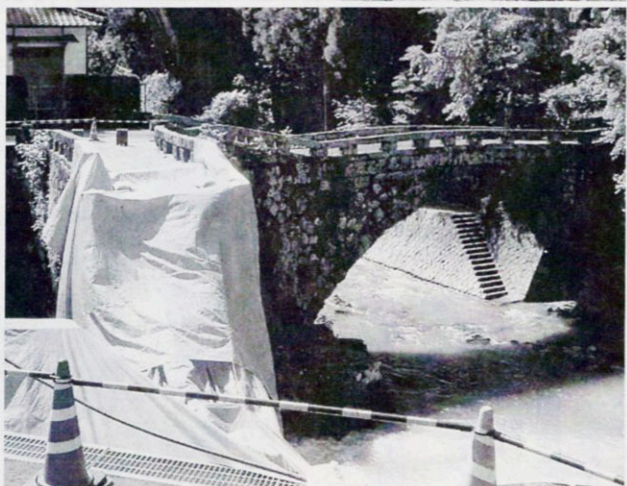
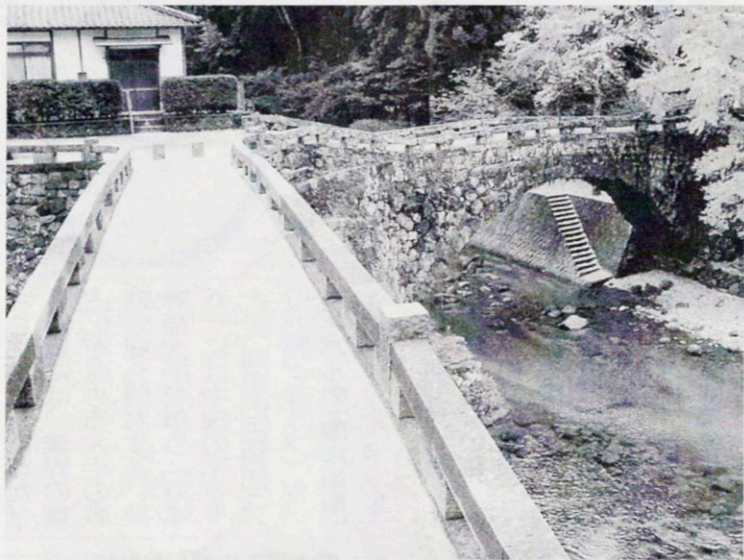
「二俣橋」通行可能に

一方の橋の中央付近からそれが最もきれいに見えることから静かな人気を呼んでいた。しかし熊本地震で「見る側の橋が大きく被災し、橋のたもとからしかハート形を見ることができなくなっていた。

「見る」側の橋は長さ約27メートル、幅約3メートル。町指定の重要文化財ながら、町道の歩道橋として使われていた。町は昨年11月、文化財

復旧の留意点を踏まえつつ、約1億5000万円かけて復旧工事に着手。流失した石材は同じ種類の石を調達した他、崩落しなかった石材もすべて解体した後、アーチ型に積み直した。

復旧工事は今月中旬に完了。周辺のイチョウがきれいに色づく中、くっきりしたハート形を再び見ることができるようになった。



④復旧工事が完了し、通行可能になった二俣橋
⑤復旧工事に入る直前、崩壊部分にはブルーシートがかけられていた